

## 特 別 講 演

### コンピューターシンチグラフィーに関する国際協力研究成果について

放射線医学総合研究所 永 井 輝 夫

国際原子力機関（IAEA）が計画実施したコンピューターシンチグラフィーに関する国際協力研究（IAEA Co-ordinated Research Programme on the Intercomparison of Computer-assisted Scintigraphic Techniques）により現在迄に得られた成果について報告する。

シンチグラフィーイメージの各種データプロセッシング法、およびディスプレイ法の比較研究の中間報告である。

ホット、又はコールド障害部を有する簡単な幾何学的ファントムの数学的シミュレーションから24種のコンピューターシミュレーテッドスキャンデータが作成され磁気テープに記録され参加研究施設に配布された。

各施設はそれを通常実施している方法でプロセッシン

グおよびディスプレイし、障害部の有無、部位、大きさ等を評価することを要請された。

計17研究施設より返送された回答がIAEAで分析された。

この分析結果から直ちにプロセッシングの実際の臨床価値を云々するのは早計であるが、各種プロセッシング法の比較的評価に関し、さらに特定のプロセッシング法によって得られた結果はディスプレイ法の選択や観察者のパフォーマンスに左右されるという事実に関し中間的な結論が得られた。

これ等の結論は現在計画中の今後の本協力研究の立案に価値があると考えられた。